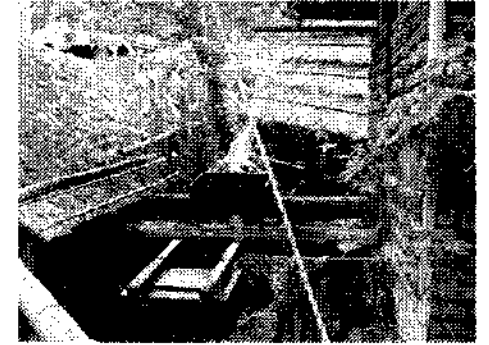
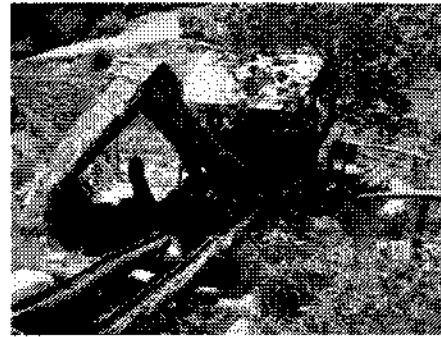


耕野芦沢集落散策ガイド

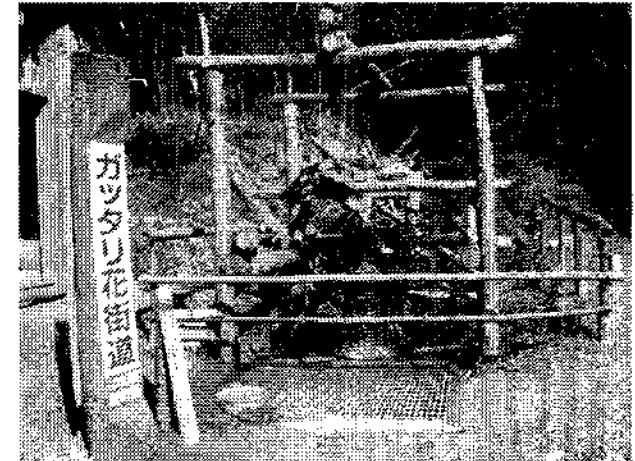


夫婦がったり

編集 耕野芦沢集落
(芦沢がったり村の村長とその仲間)

協力 丸森町産業観光課
大河原地方振興事務所 農業農村整備部

平成十九年十月 発行



つるべ式がったり

耕野芦沢集落は「がったり」の徳元、田植え祭り等の都市との交流や盆踊り等地域内交流や景観形成作物の植栽・水稻の作付けを継続することにより、農地の維持保全する等の地域づくりに取組んできました。また、阿武隈川の支流や支流に住む生きもの、雑木林と炭窯等、地域資源があります。こどもや孫に伝えたい伝統や地域資源をここに記します。また、この地に初めて来られた方々には散策ガイドとして、活用していただきたいと思っています。

- 1 「耕野芦沢」の由来
- 2 「耕野芦沢」の歴史
- 3 直売所「あがらいん伊達や」
- 4 直売所「やしまや」
- 5 がったりとは？
- 6 夫婦がったり
- 7 つるべ式がったり
- 8 たけのこ
- 9 ころかき
- 10 雑木林
- 11 ホタル
- 12 川と生きもの
- 13 田植え祭り・収穫祭
- 14 ふるさと交流センター
- 15 八雲神社、やまつみ神社
- 16 阿弥陀堂
- 17 耕野芦沢集会場
- 18 中山間地域等直接支払制度
- 19 山神様
- 20 山林オーナー「がったり村」開村宣言
- 21 がったり憲章、これまでの経過
- 22 (1) ～ (9) 丸森町の方言
- 23 お店

23 お店

緑したたる小川の美しいせせらぎ山魚も見える自然環境に恵まれた山里の店です。

あんぼ柿 (11月～3月)

樽柿 (10月～2月)

柿のしそ巻 (10月～5月)

赤しそ千枚漬・梅干・しそ巻らっきょう・はちみつらっきょう (年中)

猫入商店

業種 食料品・各種漬物生産販売

営業時間/休日 午前7時～午後7時/年中無休

住所 丸森町耕野字火名9

TEL/FAX 0224-75-2045/0224-75-2072

1 「耕野」の由来

○元亨(げんこう)年中(1321～1324年)、北畠氏の所轄になっていた頃、地質を検判したところ、納税にたえられない土地と判断され、耕野と名付けられました。

※租税を納めず、耕作する土地を耕野と称されていました。

○治承の乱により、すなわち820年前に、内乱で生き残った諸士がこの地にたてこもり、村となりました。それ以前は、ほとんど無人で、山賊が潜むようなところでした。

※治承・寿永の内乱(じしょうじゅえいのないらん)

1180年(治承4)以仁王(もちひとおう)の令旨(りょうじ)を受けた諸国源氏の挙兵から、85年(文治1)3月長門国壇ノ浦(下関市)に平氏一門が壊滅するまで、主として源平両氏による決戦のかたちをとって進行した全国的規模の内乱。当時の年号を冠してこう呼び、たんに治承の乱、あるいは源平の合戦(争乱)とも称します。

2 「耕野」の歴史

○耕野には入大遺跡をはじめ、縄文時代（前300～前7000年）の遺跡が存在します。狩猟時代にはどんぐり、山菜等が豊富に採れ、鳥獣や阿武隈川の魚類も沢山生息していたからだと思います。

○天喜年間（1050）の前九年の役後に、源義家の軍を足止めするために阿武隈川をせき止めた際に水面に潜ったとされる潜り岩があります。

○耕野には「馬上十一騎槍鉄砲百五十人」の伝説があります。天正19年（1591）伊達政宗が米沢から岩出山にうつされた時、国境の耕野・大張に伊賀の忍びの者150人を住まわせ、常に武芸を励まさせ、有事の際には出勤をさせたと伝えられています。

慶長5年（1600）正宗の白石城攻めの頃より、耕野の有名人や伊賀の忍びの者は「馬上十一騎槍鉄砲百五十人」と自負し、他よりも一目置かれていました。そして隊名は狙撃隊と称しました。彼らは名字帯刀を許され、減税もされました。文禄元年（1592）の秀吉の朝鮮出兵や元和元年（1615）の家康の大阪城攻めにも出陣したそうです。

さらに彼らの末裔は、明治元年（1868）の戊辰戦争には木砲隊を含む9個小隊469人で組織し、藩境の要所や、五十沢、瀬の上の警備に当たりました。

明治維新には、戸籍簿をつくったり、県で2番目に小学校を開校したりしました。

22 (10) 方言

よつきりぼう	よばっらい
よわり	夜なべ仕事
【る】	
るすい	留守番
ろーず	庭 花壇
ろぐすっぽ	いいかげん
【わ】	
わしだ	わすれた
わっさ	いたずら
わらすこ	子供
【ん】	
んだげんとも	そうなんだけど
んだでば	そうなんですよ

かせどりうけ

1月14日に耕野地区で行われる行事です。厄年や還暦を迎える家で集落の人々を接待する習わしです。鼻を鳴らす仕草は、「鎧死」・「呼吸困難」を表現していると言われていました。このようなことがないように、健康・家内安全を祈願する行事が続けられてきたのでしょう。

22(9) 方言

【む】	
むかむかする	胸やけがする
むぐす	おもらしする
むつける	いじける
【め】	
めっこごはん	よくたけてないごはん
めどこ	穴
【も】	
もごさえがる	可愛がる
もぞこい	かわいい
もじゃぐる	くしゃくしゃにする
ももたず	疲れて太ももがこっている状態
【や】	
やっしゃね	つらい、くるしい
やまがっこう	学校をさぼる
やみぞこぐ	なまける
やんだくなる	いやになる
【よ】	
ようたす	ようじ 買い物
よがこい	欲張り
よっぴで	夜更けまで
【ら】	
らつつあねえ	だらしがない、かたづかない
らんがすい	うるさい、そうぞうしい

3 直売所 あがらいん伊達屋



八巻矢城線の入り口から丸森町よりの国道 349 号線沿いにある直売施設。耕野ふるさと交流センターのすぐそばで、国道よりちょっと高い位置にあります。

この直売施設の代表者は谷津とき子さん（会員約 70 名）。農産物を直接消費者に供給することを目的に平成 13 年 10 月に営業を始めました。ここは谷津さんの実家で、以前は「伊達屋」という雑貨屋でした。以前は、それを改造した店舗でしたが、道路のかさ上げ計画にともない、数m上に店舗を平成 19 年に新築しました。営業開始時間は、午前 9 時から、閉店は日没までで、木曜日以外毎日開いています。1 月は冬眠するということですのでご注意ください。店内には販売スペース以外に座ってお茶飲みができるコーナーがあり、楽しく談笑しながら買い物ができるのがこの店の特徴になっています。

地元の方は、雑貨時代からの知り合いも多く、ここで新鮮な野菜や地元ならではの加工品を買ってから町外に出かけて行くそうです。町外の方々にも人気は高く、遠くは仙台市、福島市から訪れるおなじみさんもいるそうです。

「地元の人たちの井戸端会議的な場所として、地区外の人との交流の場としてたくさんの人に利用していただいています。」

連絡先 地場産品直売所
「あがらいん伊達屋」0224-75-3175

4 直売所

やしまや・「ビビッド耕野」



八巻矢城線入り口から国道 349 号線梁川町方面側にある酒屋さん「やしまや」、この中にある直売スペースが「ビビッド耕野」(会員約 70 名)です。隣のガソリンスタンド(これもやしまやさんでやっています)が目印。ここは、直売だけでなく、耕野地区のたけのこ狩りツアーやころ柿づくりツアーの案内を一手にひきうけています。

『やしまや』で日頃電話に出ているから、かけてくる人は戸惑うみたいだね。その時は、たけのことかころ柿とか直売所といったキーワードをちょっと言っただけだと、ある時は耕野たけのこ生産組合、またある時は弘法柿組合、そしてビビッド耕野に早変わりします。」と代表者の八島哲郎さん。営業時間はお店と同じでほぼ毎日営業しており、直売品も毎日揃えています。ここでは、生鮮野菜のほかに地域の特産物やお酒まで扱っているのが特徴。丸森町の柿を使ったワイン「斎理ロマン」のほか、近隣のワインやブドウジュースなども取りそろえています。

「たけのこ狩りの開催期日は決められていますが、それ以外の日でもご相談いただければ案内できる場合もありますので、まずはご一報下さい。」と話していました。また、ホームページも開設しているので、そちらからご連絡いただく方法もあるそうです。連絡先 地場産品直売所

「ビビッド耕野」0224-75-2469

22(8) 方言

【ほ】	
ほいじよ	包丁
ほぎる	植物が芽を出す
ぼっこれる	壊れる
ほでなす	愚か者
ほらこぐな	嘘言うな
ほれぼっこ	それっぽっち
ほろぐ	物を落とす
ほだなや	そうですね
【ま】	
まった	股
まつぼい	まぶしい
まで一に	ていねいに
まなぐ	目
まやう	弁償する
まるぐ	ひもで束ねる
【み】	
みしえらいる	見せてもらう
みだぐね	醜い

おはようござりす	}	おはようございます
おぼんでござりす		こんばんは
おぼんかた		
おみょうにち		また明日

22 (7) 方言

【と】	
どちようなす	臆病者
どごだずなぐ	体中全部
としよる	年をとる
とじん	さびしい
【は】	
はがいがね	はかどらない
はしゃいだ	乾燥する
はだぐ	たたく
はっかげ	歯が欠けている
ばっつ	末っ子
はなぐら	いびき
【ひ】	
ひじゃかぶ	ひざ
ひとがだけ	一食分
ひるひなが	真昼間
【ふ】	
ふぐすい	裕福
ぶつつあげる	やぶける
ぶちよる	折る
ぶんなげでおぐ	ほうっておく
【へ】	
へらへら	口数が多い
ぺろんこ	体がすっぽり入る水深

5 がったりとは？

ガッターリとは、落水を利用した唐臼、「水唐臼」【みずからうす】のことです。シーソー式の「鹿おどし」と同じ原理で動く穀類などを精製、粉碎する器具です。【とうす】ではなく、ここでは【からうす】と読みます。ガッターリは水唐臼の地方名で「バッターリ」、「バッカリ」と呼んでいる地方もあります。不思議なことにガッターリは、地域限定の名前ではないらしく、不思議なことにガッターリは、地域限定の名前ではないらしく、滋賀県多賀町、長野県白馬村（日本の棚田百選「青丸の棚田」がある）などでも同じ名前で呼ばれていて、地域のシンボルとして保存されています。ガッタン、バッタンという音は印象深く、全国的に名前にしやすい音なのでしょう。

唐臼は、その名の通り、中国大陸から直接または朝鮮半島を通じて伝来した可能性が高く、特に安土桃山時代以降、磁器製造技術の伝播に伴って全国各地に普及したようです。この頃にあった歴史的事実といえば、豊臣秀吉の朝鮮出兵。この時、参戦した各大名が陶工を日本に連れてきていて、有田、伊万里などの有名な磁器産地はこの頃が起源といわれています。磁器製造には、陶石を必要としますが、これを粉碎するために唐臼を利用しました。唐臼は、人力で動かす形式が最初で、伝来した当初から水を利用した唐臼「水唐臼」だったかどうかは不明ですが、人力が最初に伝来し、水力を利用したのはその後と考えるのが普通でしょう。

陶器の碎石用の水唐臼で有名なのが、大分県日田市小鹿田焼（おんたやき）の唐臼。谷間の沢でギーッ、バタンと音をたてる風景は「日本の音風景 100 選」にも選ばれています。

6 夫婦がったり

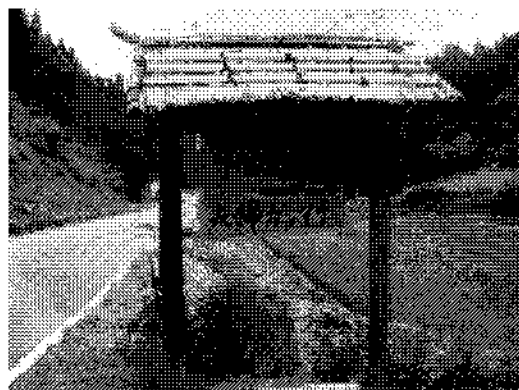
シーソー型のガッターを地元では「男（おどご）ガッター」と呼んでいます。これをはじめに作りました。だから「夫婦（めおと）ガッター」の上にちゃんとはじめに作った看板「男ガッター」があります。小屋の中にあるのは、箱を裏表に重ねたタイプで「女（おなご）ガッター」と言うそうです。これ以外に遠隔操作ができる「つるべ式ガッター」というのスタイルもあったそうです。

男女双方がそろって「夫婦ガッター」となりました。これでひとりっきり（？）だった「男ガッター」もうれしいでしょう。



男がったり

平成 14 年復元



女がったり

平成 16 年復元



22 (6) 方言

【た】

たごましる

一箇所に寄せる

だずん

こずかい

だらぬれ

びしょ濡れ

たれか

怠け者

たんぱら

短気

【ち】

ちかね

気が強い

ちこぱず

木の破片

ちぢまずげ

聞き違い

ちちゃこい

小さい

【つ】

つっけす

口答え

つつ

乳

つつこまる

縮む

づぶくぐり

水にもぐる

つんだす

差し出す

【て】

でえごんぱ

大根の葉

でがさね

映えない

てそずらすい

おきつきなくいたずらする

でほーでー

かぎりなく

22 (5) 方言

されわしで	すっかり忘れて
さすけね	さしさわりない
【し】	
ししゃます	手に負えない
しずね	うるさい
しっころぶ	ころぶ
じゃっぼ	ふる
【す】	
すける	手伝う
すしゃましい	しずかじゃない
すっしょ	お風呂
すっかげる	ちよっかいを出す
すっからびる	乾燥する
すっこだね	する必要はない
すっころぶ	勢いあまってころぶ
すっぱね	泥はね
すなこい	噛み切りにくい
すびらっこい	しぶとい
ずらもん	いい加減な人
【せ】	
ぜえご	いなか
せづ	季節 時期
【そ】	
そこっと	こそっと
そざす	汚す
そべぐる	失敗する

7 つるべしきがったり



平成16年10月に新しいガツタリができました。それは、「つるべ式ガツタリ」です。水を受けてシーソー式に動くのは男ガツタリと同じですが、水を受ける方にワイヤーが結んであり、水が落ちると同時にワイヤーが引っ張られ小屋の中の突き棒が上下するというものです。ワイヤー部分を伸ばせばガツタリから遠い場所でもつくことができるスタイルとなっています。かつてこの沢沿いにあったものを復元しています。

これも集落の人たちで約一ヶ月かかって作成しています。支えとなっている木材は栗の木で、石臼が取まっている小屋の外壁はさすが竹の産地だけあって「割竹」を使っています。動力は夫婦ガツタリとは違う沢の水を利用しています。一番難しかったのが、水受けに貯まる水の量と突き棒の重さのバランス。バランスが取れすぎていると強く石臼を突かないそうで、「その調節がたいへんだった。」とこのガツタリを管理している谷津宏さんは語ってくれました。

このそばには、周辺の湧水「長寿の水」を引いてきており、常時ちょろちょろと流れています。ガツタリののどかな風景を見ながら、おいしい水を飲むのも一興ではないでしょうか？



8 たけのこ

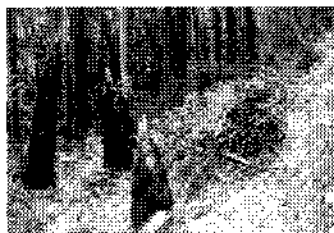
丸森町は、竹林が多い。八巻矢城線沿いにも見事な竹林が広がっています。これは、ほとんど孟宗竹なので自然に生えていたものではなく、地元の人が植えてできた林です。

孟宗竹の起源は、中国江南地方で日本への伝来は 1736 年琉球から島津藩に導入されたという説と 1661 年隠元禪師（インゲン豆の隠元です。）によって京都宇治のお寺に伝来したという説があります。その名前の由来は真冬にたけのこを食べたいという母親のために息子「孟宗」が山に入って筍を探ったという逸話から名付けられています。

孟宗竹の北限は宮城県から岩手県南部あたりでそれより北では成長があまり良くありません。宮城県への伝来は 1760 年頃滋賀県から仙台に導入されたという説があり、耕野地区にはその後となりますが、伊達藩の直轄地であったことから比較的早い時期に導入されていたと考えられます。

いずれにしろ、竹は、食用、建築資材、生活用具の材料の他、急斜面の崩壊防止植物として古くから利用されてきたものです。最近では、竹の炭「竹炭」もいろいろな方面で利用されています。

この耕野地区では、春のたけのこ狩りが有名です。詳しくは下記のところまでご連絡下さい。



電話：0224-75-2111
(やしまや)

22(4) 方言

【け】

けえすで	つり銭、おつり
けいっちゃ	洋服を裏返しに着る
けづぬげ	部屋を出るときにふすまを閉めずに出て行くこと
けむて	煙い
けろっとしてる	平気である

【こ】

ごいら	いきなり
こえ	疲れた
ごっしやぐ	おこる
ごしっぱらやげる	腹が立つ
ごしゃがれる	しかられる
こつけ	育ちが悪いこと
こっぱずがすい	ひどく恥ずかしい
ごで	夫
こばがくせ	ばかばかしい
こんじよすい	人がよい

【さ】

さぐず	米ぬか
さっぱど	こぎれいにする
されかまね	放置しておく